

思川下流蛇行屈曲部における洪水堆積物の分布について

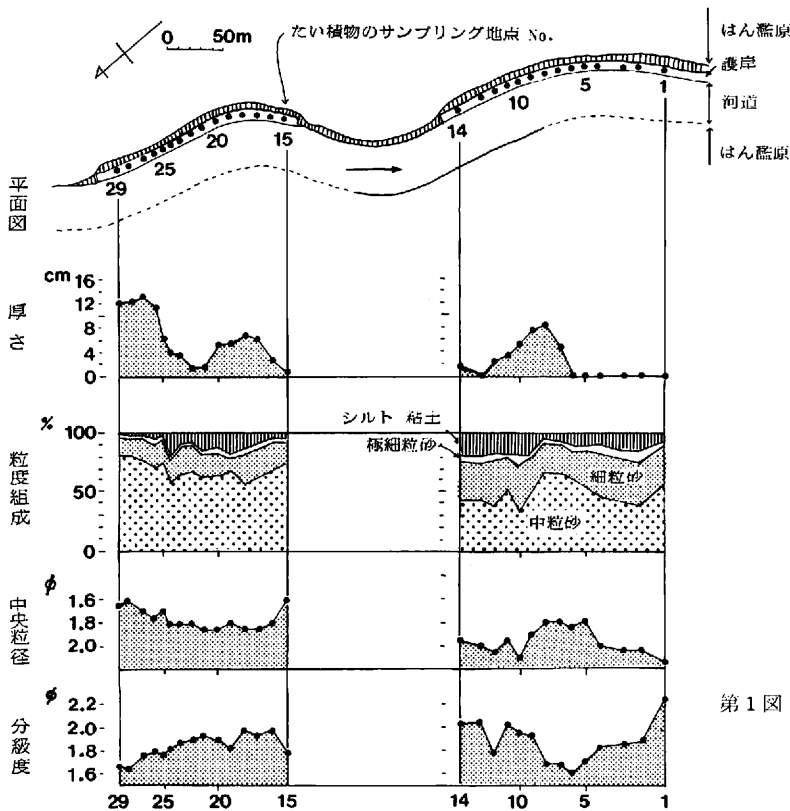
新 沢 祐 子 (自 然 学 類)
池 田 宏 (地 球 科 学 系)

蛇行河川では、攻撃斜面側が削られ、反対に滑走斜面側の河岸で土砂が堆積して、河道変遷が生ずる。しかし、その一度の出水によって生ずる堆積現象については、必ずしも充分明らかにされていない。そこで、本研究では、1983年9月27日～28日の台風10号、同年10月11日の台風13号の影響による出水によって、思川下流の屈曲部において河岸に生じた土砂の堆積現象を調べた。

調査河道区間は、渡良瀬川との合流地点から約5.5 Km 上流にあたる約500m の区間で、ふたつの

湾曲から成る。これらの左岸側は護岸されており、その護岸上に土砂が堆積した。堆積物の厚さと粒度組成の分布を第1図に示す。

これにみられるように、堆積物は滑走斜面側の護岸上で厚い。しかも、堆積物の厚さの分布は一樣ではなく、地点8, 18, 27で特に厚い。地点29の護岸斜面上には、土砂がすじ状に吹きあげたように堆積した。これは、洪水時に河道内の流れが一樣ではなく、屈曲部で底質をはぎとるようにまきあげる二次流が生じたことを暗示している。



第1図 堆積物の厚さと粒度組成の分布